

金国璞北京語会話教科書における文末語気助詞の使用

—《兒女英雄傳》との比較

The usage of sentence-final particles of Jin Guopu's Beijing dialect textbooks —Comparing with *Ernyingxiongzhuan*

楊璇

Yang Xuan

提要 本論文考察明治時代來日執教漢語教師金国璞所編 10 種北京話會話教科書の文末語気助詞使用狀況和語法特徴，並與出版時代更早の北京話武俠小説《兒女英雄傳》進行比較，分析異同，梳理兩者間歷史發展脈絡。文中充分結合太田辰夫《北京語歷史文法》、周一民《北京口語語法・詞法卷》、孫錫進《近代漢語語氣詞——漢語語氣詞的歷史考察》等先賢學說和《兒女英雄傳》的相關研究成果，基於使用頻率和使用傾向作出分析，為清末北京話口語語気助詞的時代變遷研究提供了新的視角。

キーワード：金氏の会話教科書、《兒女英雄傳》、文末語気助詞、比較対照、歷時分析

目次

1. 金氏の会話教科書と《兒女英雄傳》の文末語気助詞の使用狀況
2. 文末語気助詞の比較分析
3. 余論

1. 金氏の会話教科書と《兒女英雄傳》の文末語気助詞の使用狀況

金国璞，字卓菴，北京出身，生没年不詳。明治 30 年（1897）に開校した高等商業学校附属東京外国語学校の講師として日本文部省に招聘され，日本で 6 年間勤務した後，明治 36 年（1903）に帰国した。金氏は生涯数多くの北京語教科書を出版し，教科書の形式は応用文教科書と会話教科書に 2 分類され，1898 年に出版された《談論新編：北京官話》から 1911 年に出版された《北京官話：今古奇觀第 2 編》まで，13 年の間に 10 冊の会話教科書を執筆した。《兒女英雄傳》は中国清末期の文康が著した白話文武俠小説，全 40 回の構成で，作者の晩年期，同治帝時代（1862—1874）に成書した。初期は写本で流通していたが，光緒 4 年（1878）に北京聚珍堂から木活字本で出版された。刊行年から見ると，金氏が最初に編纂し

た会話教科書《北京官話：談論新編》（1900）と《兒女英雄傳》の差は約33年となる。

本稿は金氏の会話教科書を中心に、中で用いた文末語気助詞を取り上げ、先行研究を踏まえ使用状況と特徴を分析し、その用法と《兒女英雄傳》の文末語気助詞を比較し、それぞれの相違点を解明したいと考える。

鄧岩（2017：9-11）により、《兒女英雄傳》の文末語気助詞は2類に分けられる。一種類は文言文の語気助詞「也、矣、耳、焉、乎、哉、欵、者」、全部で8個、中では「也」と「矣」が使われた頻度が一番高い。もう一種類は現代中国語の語気助詞であり、更に一音節、二音節、三音節に分類できる。一音節の文末語気助詞は「啊、阿、呵、呀、哇、哪、呢、哩、罷、吧、噯、了、咧、羅/囉、嗎、麼、的、叻、来、拉、价、喂、哪、噯、僂、嚟」、合計26個。二音節の文末語気助詞は「而已、罷咧、罷了、也罷、不成、就是、啦阿、着呢」、合計8個、三音節の文末語気助詞は「就是了」のみとなる。

金氏の会話教科書に用いられた文末語気助詞は「了、的、罷、呀、哪、啦、麼、嗎、啊、呢、納、來着、就是了、就得了」、合計14個あり、「就得了」を除いて、残りの13個は全て《兒女英雄傳》の現代中国語の語気助詞に含まれている。文末語気助詞の使用状況により、《兒女英雄傳》では文言文語気助詞を8個使用することに対して、金氏の会話教科書ではこの8個の文言文語気助詞を一切使用されていないため、《兒女英雄傳》では白話文の色彩が色濃く残っていると分かる。

金氏の会話教科書と《兒女英雄傳》での使用状況比較データを図1に示す。

図1：《兒女英雄傳》と金氏の会話教科書に用いた現代中国語文末語気助詞の使用状況¹⁾

	《兒女英雄傳》		金氏の会話教科書	
	使用頻度	割合	使用頻度	割合
了	4070	56.86%	2334	52.33%
啦/拉	2	0.02%	7	0.16%
的	885	12.36%	478	10.72%
麼	113	1.58%	325	7.29%
嗎	213	2.98%	2	0.04%
罷	463	6.47%	309	6.93%
呢	906	12.66%	418	9.37%
啊	115	1.61%	98	2.19%
哪	52	0.73%	279	6.25%
呀	299	4.18%	93	2.09%
納	0	0.00%	15	0.34%
來着	38	0.53%	19	0.43%
就是了	3	0.02%	76	1.86%
就得了	0		7	
合計	7158	100%	4460	100%

金氏、文氏は共に北京出身で、金氏の会話教科書と文氏の《兒女英雄傳》は両書ともに北

京語で書かれている、表1から両方で用いられた文末語氣助詞の使用状況の相違点が見えてくる。

まず、《兒女英雄傳》と金氏の會話教科書で用いた14類の文末語氣助詞の中で最も使用頻度が高いのは「了」であり、両方で使用された「了」が文末語氣助詞の半分以上を占めていることから、「了」が主要な文末語氣助詞とすることができる。

次に疑問を表す「麼」と「嗎」の使用について、《兒女英雄傳》に使用された用例はそれぞれ113例と213例あり、使用割合から見ると、「麼」より「嗎」の使用頻度が高いことが分かる。逆に、金氏の會話教科書では殆ど「麼」を使い、「嗎」の用例が2つしか見当たらない。

更に、金氏の會話教科書に使用した日本明治時代の北京官話教科書にもよく使われる文末語氣助詞「納」が《兒女英雄傳》では使用されていないことが分かる。又、金氏の會話教科書では「就是了、就得了」を83例使用したことに對し、《兒女英雄傳》では「就是了」が2例、「就得了」の使用は見当たらない。

他にも、《兒女英雄傳》では「哪」の使用率は1%未満だが、金氏の會話教科書では使用率が6%に上がり、「呢」の使用率を見ると、《兒女英雄傳》より金氏の會話教科書で下がったことが分かる。

2. 文末語氣助詞の使用分析

金氏の會話教科書に用いた文末語氣助詞の用法によって、一機能、二機能と三機能以上の3類に分け、それぞれの使用方法と《兒女英雄傳》での使用方法を比較する。

2.1 一機能文末語氣助詞

1) 「啦」

《兒女英雄傳》では「啦」を「拉」とも書きそれぞれ1例ずつしかない。「拉」は：只聽得後面一個人嚷道：“走着逛拉，走着逛拉。”（第三十八回）²⁾。「啦」は「阿」との組合せ：“姑娘，你道如何啦阿？”（第十回）。孫錫進（1999:178）は“‘啦’是‘了’與‘啊’的合音，《兒女英雄傳》中有‘啦阿’連用的一例，顯然是‘了’與‘啊’合音成‘啦’後，作者為強調該音節的拖音，特意再重複綴以‘a’（阿）。”と解釈している。

金氏の會話教科書では「啦」の用例が7つ、全て“了”と“啦”の組合せとなり、感嘆を表す。例えば：那兩個局差也兼顧不了啦。（《土商叢談便覽》上卷 第二十八章）；過了五天，恐怕就拿這項錢買了木頭了，可就辦不了啦。（《華言問答》第十六章）；若是在城外頭一吃晚飯，就得進夜門了，稿可就畫不了啦。（《北京官話：談論新編》第二十五章）。がある。この「啦」(la)は「了」(le)の後ろに「a」が加わって出来た物と考えられる。

2) 「就是了、就得了」

楊杏紅（2014:150）は“‘就是了’出現在句子的末尾，表達的是‘就這樣了’的意思。前面通常是說話人的某種選擇或者某種結果。”と指摘している。太田辰夫（1965:55）による

と、「就得了」は北方語特有の物で、南京官話では用いないという。

《兒女英雄傳》には「就得了」の用例が無く、「就是了」の用例が3例だけある。例えば：“不嫁就是了，可無端的去告訴天去做甚麼？”（第二十六回）；“你父親既這麼吩咐，心裡自然有個道理，你就遵着你父親的話就是了。”（第四十回）；“既是老爺這麼說，等閒了我告訴他們就是了。”（第四十回）。がある。金氏の会話教科書に「就是了、就得了」の用例がそれぞれ76例、7例ある。例えば：我終身不忘就是了。（《北京官話：今古奇觀第1編》李沂公）などがある。「就得了」の用例はたとえば：您把行李交給我們就得了。（《北京官話：談論新編》第四十五章）。などがある。

3) 「納」

太田辰夫(1965)は「您納」を北京語の文法特徴を持つ語として指摘している。楊杏紅(2014: 146-147)によると、「納」は日本明治時代北京官話教科書に現れた特殊語気助詞であり、二人称と三人称の後ろに添え、「你納」、「您納」、「他納」になるという。

張衛東譯《語言自邇集：19世紀中期的北京話》(2002:129)は“您 nin²，更普遍的是说：你納 ni-na，這又是你老人家 ni lao jên chia 的縮略形式。”と指摘した。この解釈について、楊杏紅氏(2014: 147)は“這一句話的後半句指出了‘你納’的來源，‘你老人家’的縮略形式是‘你老’，最後發展成為‘你納’很可能是受語音的同化和脫落的雙重影響，‘ni-lao’後面的雙原音在口語中‘o’脫落，成為‘ni-la’，而後面一個音節的輔音‘l’受到前面的一個音節韻尾‘n’的同化，而最終在口語中變化成為‘ni-na’。‘你納’由‘你老’而來，‘您納’、‘他納’的出現我們認為很可能是‘你納’的類推。”と指摘した。

《兒女英雄傳》には「納」の用例が見当たらない。金氏の会話教科書では15例ある、何も「您納」の構成で、文末に置く。例えば：我黑下白日總惦記着您納。（《北京官話：今古奇觀第1編》李沂公）。不到一百兩銀子，我就賣給您納。（《華言問答》第十一章）。がある。

2.2 二機能文末語気助詞

1) 「的」

周一民(1998: 271)は“語氣詞‘的’用在敘述已然事實的句子末尾，表示肯定、確認、強調等語氣。普通話允許‘的’用在表示未然事實的句子裡，如‘他要走的’‘我會好的’，北京口語沒有此中用法，一概用於過去時。”と指摘した。

《兒女英雄傳》と金氏の会話教科書で用いた「的」は、過去を表す用法に限らず、近未来を表す用法も見られる。過去を表す用例は例えば：我全仗着人家大師傅一個月貼補個三吊五吊的。（《兒女英雄傳》第七回）；他任甚麼事也沒有，不過滿處打牙涮嘴兒的。（《虎頭蛇尾》）。がある。近未来を表す用例は例えば：左右到了船上他爺兒兩個也要來的，在那裡的有多少話說不了呢！（《兒女英雄傳》第二十二回）；爾同他去，萬無一失的。（《北京官話：今古奇觀第2編》沈曉霞）。がある。

2) 「麼」と「嗎」

「麼」は「嗎」の前身であり、太田辰夫 (1958: 362) は「《麼》が用いられるようになったのは宋代とすべきである。…《嗎》という文字が用いられるようになったのは清代である。」と指摘している。

《兒女英雄傳》に「嗎」の用例が213例、「麼」の用例が113例ということから、《兒女英雄傳》では「嗎」の使用傾向が強いと考えられる。しかし、金氏の会話教科書には「嗎」の用例が2例しか見当たらない、殆ど「麼」を用いる。

《兒女英雄傳》と金氏の会話教科書に用いられた「麼」の用法は2類あり、感嘆を表す用法と疑問を表す用法となる。両書とも、感嘆を表す用例が少ない、例えば：那莊客道：“我看着只怕也是咱們同行的爺們，我見他也背着象老爺子使的那麼個彈弓子麼。(《兒女英雄傳》第十七回)。可不是麼，您聽一聽這個情理有多麼可惡。(《虎頭蛇尾》)。”がある。疑問を表す用法は現代中国語の疑問詞「嗎」と同じく、反詰にも使える。例えば：他道：“問我麼？我在家裡做夢！”(《兒女英雄傳》第二十三回)；公子道：“你們店裡不是都有打更的更夫麼？煩你叫他們給我拿進來，我給他幾個酒錢。”(《兒女英雄傳》第四回)；您用過飯了麼(《華言問答》第十二章)；若打算發那麼大的財，那不是做夢麼。(《士商叢談便覽》上卷)。”がある。

《兒女英雄傳》には「嗎」の用法が疑問と反詰の2類あり、何も「麼」の用法に含まれている。疑問の用例は例えば：内中一個年輕的轉問他道：“你是問道兒的嗎？”(第十四回)；反詰の用例：“要不給他老磕個頭，咱心裡過得去嗎？”(第三十五回)。”がある。金氏の会話教科書に使用した「嗎」は疑問を表すのみとなる。例えば：下短他多少，你再給他現銀子就得了嗎。(《華言問答》第五章)；丟這三百兩銀子，應當是你賠出來，還有什麼說的嗎。(《華言問答》第十五章)。”がある。

3) 「哪」

楊杏紅 (2014: 144) は“‘哪’在日本明治時期的北京管教科書中是一個常見的語氣詞，主要表示感嘆。…‘哪’在清代一起，寫作‘那’，可以表示疑問和非疑問兩種語氣，清代以後雖然主要用於感嘆語氣，但是在日本明治時期的北京官話教材中，‘哪’還可以用來表示疑問語氣。”と指摘している。《兒女英雄傳》と金氏の会話教科書に使用した「哪」は感嘆を表す用例と疑問文に添て、疑問の語気を強める用例の両方が見られる。感嘆の用例は例えば：這才是我鄧老九的好朋友哪！(《兒女英雄傳》第二十一回)；提起老伯大人，那還是我們衙門的老前輩哪。(《摺紳談論新集》第一章)。”がある。疑問の語気を強める用例は例えば：這雙好，穿着又合式又舒服，怎麼還換哪？(《兒女英雄傳》第二十七回)；你們兩人瞞着這個，背着那個，又商量什麼發財的事情哪。(《士商叢談便覽》上卷 第七十一章)。”がある。

4) 「來着」

太田辰夫(1958:391)は「《來着》は北方語で、過去あるいは回憶をあらわす。現在通用の範囲はあまり広くなく、共通語では單に《來》という。《來》は唐五代からあり、《來着》はおそらくそれから出たもので清代になってはじめてみえる。」と指摘している。

また「來着」の由来について、常瀛生(1993:194)は“‘來着表示動作和狀態，過去如此，現在仍如此，來自滿語動詞過去完成進行時態。現北京話仍用‘來着’。其他漢語方言不見得有這樣細緻的時態表現法。”と指摘している。

《兒女英雄傳》と金氏の会話教科書に使用された「來着」は過去を表す用例と疑問文に添え、疑問の語気を強める。過去を表す用例は例えば：“昨日他也在這裡來着。”(《兒女英雄傳》第二十九回)；在雲華寺裏避雨來着(《北京官話：今古奇觀第1編・李汧公》)。がある。疑問の語気を強める用例は例えば：他說：“你何曾支着兒來着？”(《兒女英雄傳》第三十三回)；老弟這兩天幹什麼來着。(《華言問答》第二十六章)。がある。

2.3 三機能以上の文末語気助詞

1) 「了」

周一民(1998:268)は“語氣詞‘了’與時體助詞‘了’即有瓜葛又有區別。時體助詞‘了’附着在動詞之後，表示動作變化的完成或實現。語氣詞‘了’附着在句子末尾，表示事態發生了變化，並表示不同的語氣。在一定條件下，二者可以重合。”と指摘している。

金氏の会話教科書と《兒女英雄傳》で用いた「了」はアスペクト助詞「了」と文末語気助詞「了」両方で使用する。本節では文末語気助詞「了」のみ分析する。

《兒女英雄傳》と金氏の会話教科書に用いた文末語気助詞「了」の用法は3種あり、新状況の発生や変化を表す、感嘆を表す、疑問文に添え、疑問の語気を強めるとなる。新状況の発生や変化を表す用例は例えば：“我洗手的那個功夫兒他都等不得，就忙着先跑了來了，這會子又那兒去了？”(《兒女英雄傳》第三十五回)；因為去年我辦去的貨，在海面上遭了風了。(《華言問答》第九章)。がある。感嘆を表す用例は例えば：“姑老爺，你這麼着，你這會子再把你那位程大哥叫進來，你就當着我們大家伙兒，拿起他那根煙袋來，親自給他裝袋煙，我就服了你了！”(《兒女英雄傳》第三十七回)；實在不敢當，這就感情的很了。(《華言問答》第十四章)。がある。疑問の語気を強める用例は例えば：“你這孩子，怎麼又跑出來了？”(《兒女英雄傳》第三十五回)；這是第幾個戲了。(《搢紳談論新集》第十九章)。がある。

2) 「罷」

太田辰夫は「《吧》という文字が用いられるようになったのは民國以後で、清代以前は《罷》とかいた。」と指摘している。金氏の会話教科書では「罷」のみを使用し、《兒女英雄傳》では「罷」を使用した、「吧」の用例が1例確認できた。

《兒女英雄傳》と金氏の会話教科書で「罷」の用法は命令、勧誘、推測と仮定、4類ある。

命令の用例は例えば：你說說罷，你可千萬別象你們老人家那麼樞人。（《兒女英雄傳》第四十回）；那個掌櫃的說正辦，你吃完了飯幹你的去罷。（《華言問答第》二十四章）。がある。勸誘の用例は例えば：“姐姐，舅母既這麼吩咐，不咱們就走罷，家裡坐坐兒再來。”（《兒女英雄傳》第二十九回）；俚們也不必謙讓了，就此坐下罷。（《搢紳談論新集》第十八章）。がある。推測の用例は例えば：“那倚車子只怕老爺坐不來罷？”（《兒女英雄傳》第十四回）；我想他或者要在這兒打凍罷。（《士商叢談便覽》上卷第四十八章）。がある。仮定の用例は例えば：“這個長生牌兒不提一句罷，算漏一筆；提一句罷，沒處交代。”（《兒女英雄傳》第二十九回）；他瞧這光景不妥，一想半路途中止了工罷，真領，往下蓋，眼看着錢是接不上了。（《北京官話：談論新編》第十一章）。がある。

「吧」の由来について、太田辰夫（1958：367）は「《吧》という文字が用いられるようになったのは民國以後で、清代以前は《罷》とかいた。」と指摘している。又、「吧」の用法について、孫錫進（1999：164）は“‘吧’代替‘罷’之初，幾乎都是用於商量、酌定的語氣，隨着‘吧’運用的增加，用途也逐漸擴大，以至囊括了‘罷’的所有用法。”と指摘した。金氏の會話教科書に使用されていない「吧」は《兒女英雄傳》に用例が1例のみ、勸誘の意味を表す。例えば：“況這程世兄的令政又是個女史，倒是教他們小孩子們畫着頑兒去吧。”（第二十九回）。がある。

3) 「啊」

孫錫進（1999：172-173）は“‘呵’是‘啊’的前身，‘阿’是‘呵’的異體。…明代開始又出現了‘啊’。‘啊’和‘呵’是同一個語氣詞，僅字形不同。”と指摘している。《兒女英雄傳》に「呵」、「阿」、「啊」の用例がそれぞれ5例、39例、115例ある。一方、金氏の會話教科書では「啊」を使用し、98例ある。金氏の會話教科書では、「啊」が主に感嘆を表す用法と疑問文に添え、疑問の語気を強める用法となる。感嘆を表す用例は例えば：雖然死的可憐哪，這也是他默默中的報應啊。（《華言問答》第十七章）がある。疑問の語気を強める用例は例えば：掌櫃的貴姓啊？（《華言問答》第一章）。がある。

《兒女英雄傳》に「啊（呵、阿）」の用法は上述した2つの用法以外にも、命令と列挙の用法がある。感嘆を表す用例は例えば：“這是‘獨釣寒江’啊。”（第三十四回）がある。疑問の語気を強める用例は例えば：便開口問道：“那裡是東莊啊？”（第十四回）がある。命令を表す用例は例えば：他正不解，便聽何小姐在屋裡咳嗽，叫了聲：“來個人兒啊。”（第三十八回）がある。列挙を表す用例は例えば：“只聽說金子是件寶貝，鍍個冠簪兒啊，丁香兒啊，還得好些錢呢，敢是真有這麼大包的。”（第九回）。がある。

4) 「呀」

孫錫進（1999：166）は“早在宋代就已出現與‘也’想通的紀錄 ia 音的語氣詞‘啞’‘耶’，金元時這個語氣詞又用‘呀’來記錄。它所表示的語氣主要是①反問；②呼喚；③感嘆。‘呀’

是個新興的語氣詞書寫形式，在長時期中不能得到普遍運用。”と指摘している。

《兒女英雄傳》では「呀」の用例が299個あり、用法はかなり豊富である。感嘆を表す用例は例えば：“這個官兒來得古怪呀！”（第二回）がある。疑問の語気を強める用例は例えば：那跟的店伙問說：“行李卸不卸呀？”（第四回）がある。命令を表す用例は例えば：“你告訴當家的一聲兒，出來招呼客呀！”（第五回）がある。列挙を表す用例は例えば：“米呀、茶葉呀、蠟呀，以至再帶上點兒香啊、藥啊，臨近了，都到上屋裡來取。”（第三十四回）がある。呼び掛け語の用例は例えば：“列位呀！照這話聽起來，你我都錯了，錯大發了！”（第二十一回）。がある。

金氏の会話教科書には「呀」の用例が93例で、感嘆を表す用法と疑問文に添え、疑問の語気を強める用法2類になる。感嘆を表す用例は例えば：然而衙門公事甚多呀。（《搢紳談論新集》第四章）がある。疑問の語気を強める用例は例えば：您打算多咱拜客呀。（《搢紳談論新集》第十一章）。がある。

5) 「呢」

周一民（1998:267）は“‘呢’表示疑問可以用在特指問、選擇問和正反問幾種問句中，一般不能用在是非問句中。”と指摘している。

金氏の会話教科書では「呢」は主に疑問文に添え、疑問文の語気を強める用法となる。特指疑問文の用例が最も多い、例えば：各衙門學堂公司，都是看甚麼新聞紙呢。（《士商叢談便覽》上卷第七章）；大家聽這話就都問他說，這是怎麼個緣故呢。（《北京官話：今古奇觀第2編》李汧公）。がある。選択疑問文の用例は例えば：可是打算是在飯莊子還是飯館子呢。（《搢紳談論新集》第十七章）。がある。反復疑問文の用例は例えば：那麼商量商量，咱們交買賣可以不可以呢。（《華言問答》第七章）。がある。反問文の用例は例えば：何必那麼廢事呢。（《虎頭蛇尾》）。がある。又、感嘆を表す用例も見られる。例えば：雖說這不是頭生兒，然而得子可是頭一次呢。（《搢紳談論新集》第一章）。などがある。

《兒女英雄傳》では疑問の語気を強める用法と感嘆を表す用法以外、承前疑問の用法も見られる。承前疑問について、太田辰夫（1958:363）は「承前疑問はかならず文脈に支えられているもので、問うこと全體は句二あらわれておらず、具體的な内容は文脈によって定める。まえになにかのべられており、それにもとづいて更にまた發問するものである。句の形としてはふつう主要成分が省略されている。」と解釈している。承前疑問の用例は例えば：公子更不問別的長短，便問：“銀子呢？”（第三回）がある。感嘆を表す用例は例えば：“卑職到此不久，人地生疏，正要合大老爺討人呢。”（第二回）がある。選択疑問文の用例は例えば：“便是幸而不參，我那個知縣作到今日，說句老實話，是還想我能去鑽營升官呢，是還想我能去謀幹發財呢？”（第三十九回）がある。反復疑問文の用例は例えば：“然則進場在那萬餘人面前作不作呢？”（第三十四回）がある。反問文の用例は例えば：然則那煙袋桿兒又怎的

會“顛巍巍”呢? (第三十七回)。がある。

3. 余論

以上、先行研究を参考にした上で、金氏の會話教科書と《兒女英雄傳》での文末語氣助詞の使用を考察し、使用方法と使用頻度を分析した。その結果、成書年代がかなり近く、同じ北京語で書かれた金氏の會話教科書と《兒女英雄傳》では文末語氣助詞の使用に互いに大きな差異があることが分かる。

1) 金氏の會話教科書では「嗎」の使用が極めて少ないこと

孫錫進 (1999 : 159-162) の主張により、明代の小説《石點頭》³⁾で「嗎」の使用が初めて確認できた、その後「嗎」の使用が徐々に広がり、《兒女英雄傳》に「嗎」の使用頻度が「麼」を超え、20世紀の初期、「嗎」の使用が主流になったと言える。《兒女英雄傳》では「嗎」と「麼」の使用方法が同様となり、「麼」より「嗎」の方の使用頻度が高い。しかし、金氏の會話教科書に「嗎」の用例が2例だけで、主に「麼」を用い、疑問を表す。日本明治時代の北京官話教科書に「麼」と「嗎」の使用状況について、楊杏紅 (2014 : 141) は“但是在日本明治時期的北京官話教材中，情況並非如此，通過考察，我們發現這些北京官話教科書中基本上都寫作‘麼’，只偶爾見‘嗎’的用例。…這樣看來，在日本明治時期的北京官話課本中，基本上都在使用‘麼’，‘嗎’並沒有取得主體的地位。”と指摘している。金氏の會話教科書では、「麼」と「嗎」の使用状況は楊氏説の証拠になり、日本明治時代の北京官話教科書では「嗎」より「麼」が主流的に使用される特殊性を表した。

2) 金氏の會話教科書で「納」を使用すること

「納」について、楊杏紅 (2014 : 148) は“從詞的構造來看，認為‘你納’‘您納’是尊稱代詞並不合適，把‘納’看作是一個新興的語氣詞更為合適，特別是到了明治後期‘納’的字形逐漸固定為‘哪’和‘訥’，以及今天北京話中的‘訥’都應該看作表尊敬義的語氣詞。只是和其他的語氣詞相比，‘訥’的使用範圍很窄，而且正在逐漸萎縮，很可能不久就消失在北京話中。”と指摘している。

《兒女英雄傳》では「納」の使用例が見当たらないことに対して、金氏の會話教科書では「納」を15例使用することから、「納」は日本明治時代の北京官話教科書に現れた新たな文末語氣助詞であることが判断できる。しかし、金氏の會話教科書では、「納」が他の文末語氣助詞と比べると使用例が比較的少ない、単機能であることが一つの原因と考えられる。必ずしも当時の北京語では「納」の使用がまだ普及していなかったことが推測できる。

3) 金氏の會話教科書で異体字を使用しないこと

《兒女英雄傳》には文末語氣助詞「啊、罷、啦」の異体字の使用例があり、「啊」を「呵、阿」と書き、「罷」を「吧」と書き、「啦」を「拉」と書き、特に「啊、阿、呵」の混用が多く使用方法の区別がない。孫錫進 (1999 : 173) は“‘啊’在使用初期，往往是

‘啊’ ‘呵’ ‘阿’ 錯雜混用。”と指摘している。それに対して、金氏の会話教科書に異体字の混用が見当たらない。《兒女英雄傳》は小説であり、異体字の混用は閲読に影響がない。中国語教科書は中国語を習得する際に使用する語学教材であり、字の使用上には統一性が必要である。異体字の混用がないことから金氏の教科書の慎重性が高いとも言え、また当時は「啊、罷、啦」が正字と見做されたことも窺える。

4) 金氏の会話教科書に使用した文末語気助詞の用法の明確性が強い

三機能以上の文末語気助詞の中、《兒女英雄傳》と金氏の会話教科書に「了」の使用が多い。用法として、金氏の会話教科書に用いた「了」は疑問を表すと疑問文に添え、疑問の語気を強めるという2類の用法がない、代わりに「呢」と「麼」を用い、使用推移は文末語気助詞の間で行った。又、《兒女英雄傳》に使用した三機能以上の文末語気助詞「呀」と「啊」の用法がかなり豊富で、各用法が5類と4類があることに対して、金氏の会話教科書に「呀」と「啊」の用法がそれぞれ3類、2類に限定され、使用範囲が狭まっている。

一つの文末語気助詞に関し、用法が少なければ少ないほど、用法の明確性或は単一性が強いと言える。又、このような明確性が高い分配によって、学習者が習得しやすいことも考えられる。

5) 清末北京語語気助詞の使用差異

《兒女英雄傳》に使用した文言文語気助詞は金氏の会話教科書では一切使用されていないことから、金氏の会話教科書に当時日常使用中の新しい口語文末語気助詞を限定して取り入れたことが分かる。両方とも使用した文末語気助詞の中では「了」の使用頻度が一番高い、用法も豊富で、「了」は当時北京語の主流の文末語気助詞と言える。「的、呀、啊、啦、來着」の使用頻度がほぼ同じで、両方共に「啦」の使用が極めて少ない。楊杏紅(2014: 144)は“從《歧路燈》到《兒女英雄傳》的100多年的時間裡，‘啦’並沒有得到廣泛的使用，隨着‘了’讀音從‘liao’變為‘la’，因為予以和發音相似，‘啦’也被大量地使用，這大概跟19世紀後期口字旁語氣詞的迅速發展有關。我們在明治時的北京官話教科書中很少發現‘啦’的用例，…而同時期的清末小說，如《小額》和《老殘遊記》中已經大量使用語氣詞‘啦’。這種情況和我們上面談到的字型規範的情況一樣。”と解釈している。「罷、哪、就是了/就得了」の使用率は《兒女英雄傳》より金氏の会話教科書の方が高い。楊杏紅(2014: 139-150)によりこの三つの文末語気助詞はいずれも日本明治時代の北京官話教科書で大量に使用されたという。

又、「啊、呀、哪」について、いずれも感嘆を表すもので、「啊」を基幹として前音節の音声特徴によって変化する文末語気助詞である。関連分析は今後の研究課題に譲る。

注

1) 本表に掲示した《兒女英雄傳》文末語気助詞の使用データは鄧岩(2017)を参考にした。

- 2) 本論文に引用した《兒女英雄傳》の用例は、《古本小説集成》に収録された北京聚珍堂木活字本（1878年）を底本とし、くぎり符号は齊魯書社出版《兒女英雄傳》上下（1989）を参考した。
- 3) 《石點頭》は明代の擬話本小説集、別名「醒世第二奇書」、作者「天然痴叟」、全14巻で独立した短編14編を収める。

研究資料

- 金国璞/平岩道知 1900 《北京官話：談論新編》 文求堂書店
- 1901 《士商叢談便覽》上巻 文求堂書店
- 1902 《士商叢談便覽》下巻 文求堂書店
- 1903 《華言問答》 文求堂書店
- /諸岡三郎編 1903 《虎頭蛇尾》 諸岡三郎
- 吴启太/鄭永邦著 金国璞改訂 1903 《改訂官話指南》（第一卷） 文求堂書店
- 1904 《北京官話：今古奇觀第1編》 文求堂書店
- /鎌田弥助 1907 《摺紳談論新集》 文求堂書店
- /瀬上恕治 1907 《華語分類撮要》 文求堂書店
- 1911 《北京官話：今古奇觀第2編》 文求堂書店
- 〔清〕文康 1878 《兒女英雄傳》 聚珍堂書房木活字本、《古本小説集成》（1994）上海古籍出版社收録影印版
- 1989 《兒女英雄傳》（上下） 齊魯書社

参考文献

- 太田辰夫 1958 『中国語歴史文法』 江南書店
- 1965 「北京語の文法特點」 『中国研究：經濟・文学・語学 久重福三郎先生坂本一郎先生還曆記念』 久重福三郎先生坂本一郎先生還曆記念行事準備委員会編
- 常瀛生 1993 《北京土話中的滿語》 北京燕山出版社
- 周一民 1998 《北京口語語法・詞法卷》 語文出版社
- 孫錫進 1999 《近代漢語語氣詞—漢語語氣詞的歷史考察》 語文出版社
- 張衛東譯 2002 《語言自邇集：19世紀中期的北京話》 北京大學出版社
- 楊杏紅 2014 《日本明治時期北京官話課本語法研究》 厦門大學出版社
- 鄧岩 2017 <《兒女英雄傳》語氣詞研究—兼與《紅樓夢》比較> 黑龍江大學碩士研究生學位論文